

令和4年度集団回収における「その他の古紙」回収促進に向けた 回収体験紙袋モニター事業実施報告書

令和5年3月
資源循環推進課

<事業概要>

生活ごみに含まれるリサイクル可能な紙類のリサイクル促進のため、集団回収登録団体に対し、モニターとして「その他の古紙」回収体験袋を構成世帯へ配布し、利用に関する効果・検証を行い次年度以降の施策の基礎資料として活用する。

<募集方法及びモニターへの応募・実施状況>

上半期の交付申請書類送付時（令和4年7月）に、募集チラシを同封
…31団体が応募し、うち30団体（計4,676世帯）がモニターに参加（1団体は令和3年度参加済みのため対象外）

<モニター期間>

令和4年9月以降随時開始～令和5年1月

<アンケート回答率>

83.3%（30団体中25団体が回答）

<モニター団体の属性等>

No.	区域	参加数	回答数	参加割合
1	堺区	2	2	6.7%
2	中区	3	3	10.0%
3	東区	2	2	6.7%
4	西区	2	2	6.7%
5	南区	20	15	66.7%
6	北区	1	1	3.3%
7	美原区	0	0	0.0%

No.	世帯数	参加数	回答数
1	～50	4	3
2	51～100	7	6
3	101～200	12	11
4	201～	7	5

No.	団体の種別	参加数	回答数	参加割合
1	自治会	19	15	63.3%
2	こども会	6	6	20.0%
3	管理組合	4	3	13.3%
4	老人会	1	1	3.3%

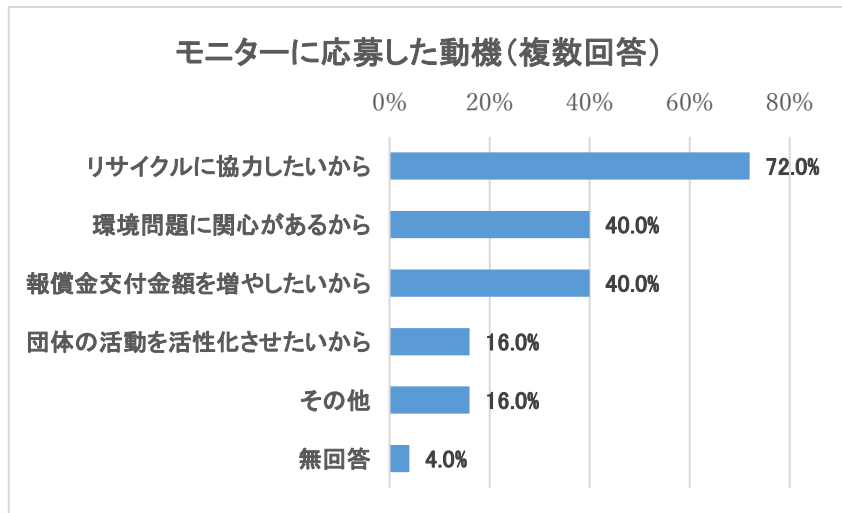
No.	紙袋の配布時期	回答数	割合
1	9月中旬	3	12.0%
2	9月下旬	5	20.0%
3	10月上旬	4	16.0%
4	10月中旬	4	16.0%
5	10月下旬以降	4	16.0%
6	その他	1	4.0%
7	無回答	4	16.0%

<アンケート集計結果>

1. モニターに応募した動機

について

70%を超える団体が、「リサイクルに協力したいから」と答え、「環境問題に関心があるから」「報償金交付金額を増やしたいから」は40%となりました。

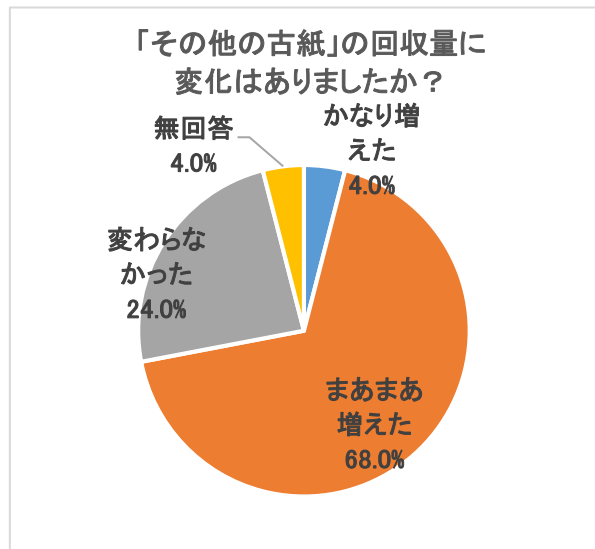


2. モニターの取組で「その他の古紙」の回収量に変化はありましたか？

「かなり」「まあまあ」増えたと答えた団体で70%を超えました。

なお、「雑誌・その他の古紙」回収量を前期（令和4年度上半期）分と比較すると、回収量が増えた団体は11団体で、モニター参加団体の集団回収量合計は減少しました。

一方、前々期（令和3年度下半期）との比較では12団体が増加し、参加団体の集団回収量合計も増加しました。



※上半期は引越・進学等により、下半期に比べて雑誌（本・教科書等）の排出量が多い傾向にあります。

※令和4年度上半期、令和3年度下半期のどちらかもしくは両方に実績のない団体は比較不可団体としています。

令和4年度下半期報償金交付申請における「雑誌・その他の古紙」回収量の比較

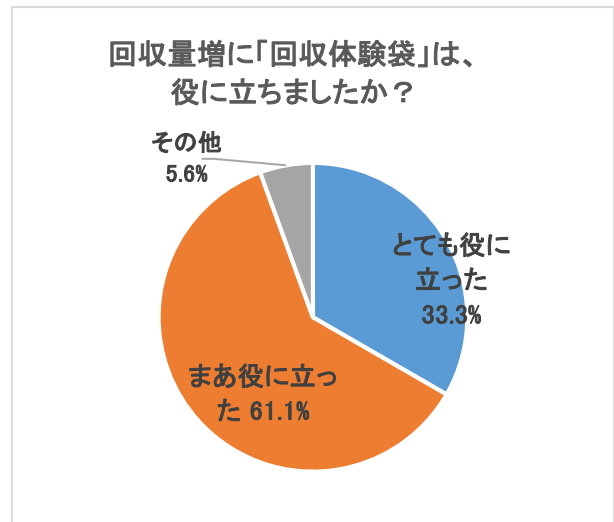
	令和4年度上半期 比較	割合	令和3年度下半期 比較	割合
↑「増」団体数	11	37%	12	40%
↓「減」団体数	16	53%	16	53%
比較不可団体数	3	10%	2	7%
回収量増減（30団体計・ 比較不可団体除く）	-1,535kg	-4.0%	985kg	2.6%

・集団回収量が増加した団体は、令和4年度上半期比較10団体（回収量9.2%増加）、令和3年度下半期比較6団体（回収量11.5%増加）

・「雑誌・その他の古紙」回収量が増加したのは、令和4年度上半期比較11団体（回収量20.4%増加）、令和3年度下半期比較12団体（回収量33.0%増加）

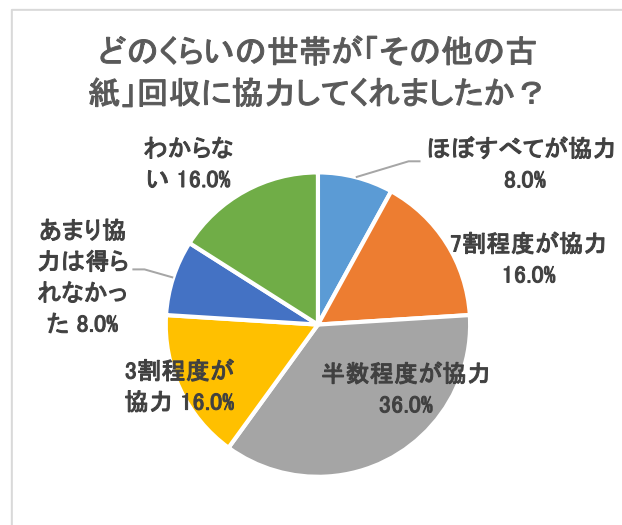
3. Q2の設問で、1 又は 2（回収量が増えた）と答えた方にお聞きします。回収量の増加に、今回配布した「回収体験袋」は、役に立ちましたか？

「とても」「まあ」役に立ったと答えた団体があわせて95%近くにのぼりました。

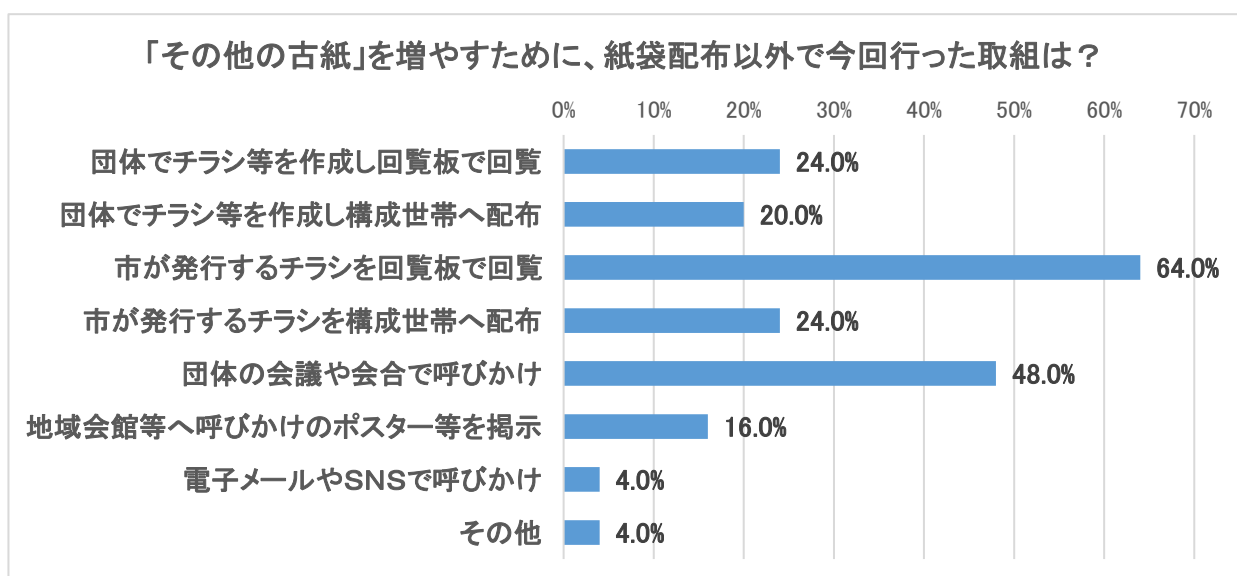


4. 貴団体の構成世帯のうち、どの程度の世帯が「その他の古紙」回収に協力してくれましたか？

協力世帯が「ほぼ全て」「7割程度」「半数程度」と答えた団体の合計が60%だった一方、「あまり協力は得られなかった」と答えた団体は10%未満となりました。



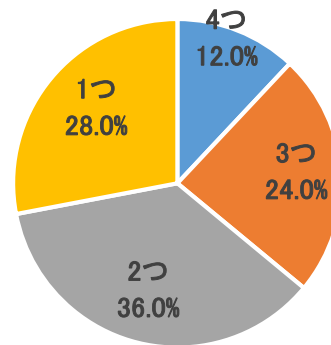
5. 「回収体験袋」を配布する以外に、「その他の古紙」回収を増やすための取組を行いましたか？（複数回答可）



「市が発行するチラシを回覧板で回覧」との回答が60%を超え、続いて「団体の会議や会合で呼びかけ」が50%弱ありました。

アンケートに回答したすべての団体で、何らかの取組を行っており、そのうち複数の取組を行っていた団体は70%を超えました。また、団体の発行するニュースでの呼びかけ、構成世帯へ団体の公式 SNS を使用して周知した団体もありました。

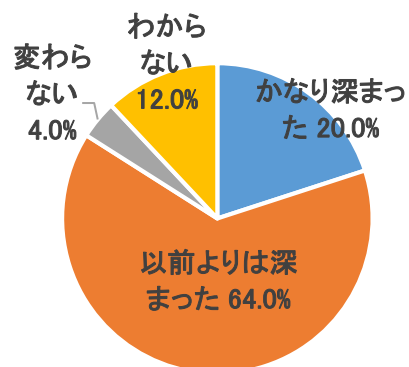
回収袋以外で実施した取組の数



6. 貴団体では「回収体験袋」モニターに取り組むことで、「その他の古紙」分別の理解は深まりましたか？

「かなり」「以前より」深まったと答えた団体が84%にのぼり、「変わらない」「わからない」と答えた団体は16%でした。

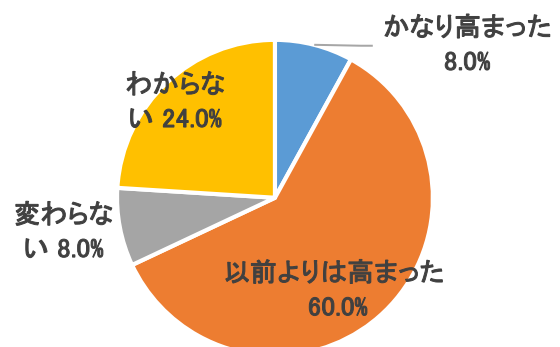
モニターの取組による団体の「その他の古紙」分別の理解について



7. 貴団体では「回収体験袋」モニターに取り組むことで、環境問題についての意識は高まりましたか？

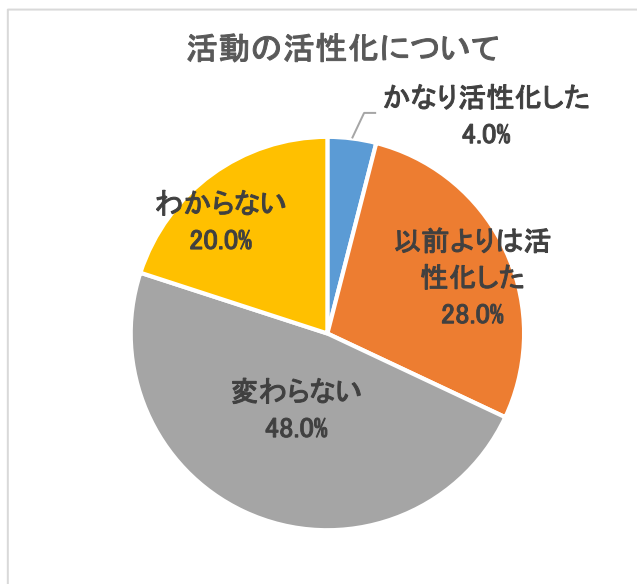
「かなり高まった」「以前よりは高まった」と答えた団体が70%弱にのぼり、「変わらない」「わからない」とした回答は30%強でした。

環境問題への関心について



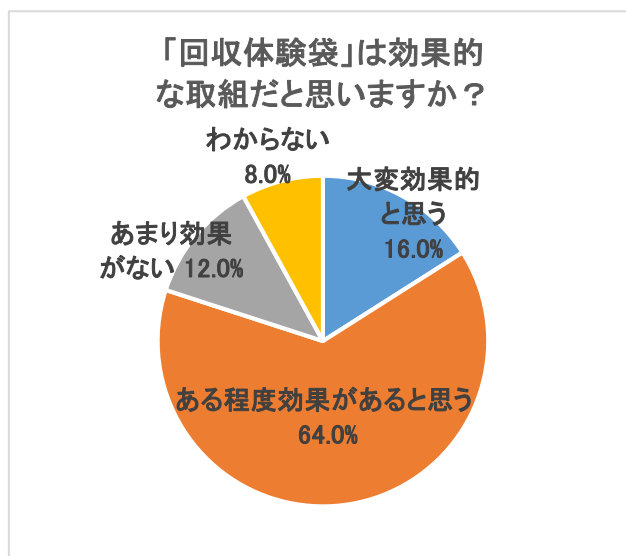
8. 貴団体では「回収体験袋」モニターに取り組むことで、団体の活動が活性化しましたか？

「かなり」「以前よりは」高まったと答えた団体が計 32%となり、「変わらない」「わからない」とした回答は計 68%でした。



9. 「回収体験袋」はその他の古紙のリサイクル推進に効果的な取組だと思えますか？

「大変効果的と思う」「ある程度効果があると思う」と答えた団体が、計 80%となり、「あまり効果がない」とした回答は 12%でした。



<まとめ>

○回収量について

ペーパーレス化や電子化の進展等により、新聞や雑誌等紙類全体の市場流通量が減少しており、集団回収量は減少傾向にあります。令和3年度実績で「雑誌・その他の古紙」は、令和2年度比約10%減少している中で、モニター参加団体においては、令和4年度上半期比較で4%減少にとどまり、令和3年度下半期比較は2.6%増加しています。

また、モニター参加団体30団体のうち、「雑誌・その他の古紙」回収量が増加した団体は令和4年度年度上半期比較11団体、令和3年度下半期比較12団体となっており、集団回収量が増加した団体は令和年度上半期比較10団体、令和3年度下半期比較6団体となっています。本回収袋の使用により、「雑誌・その他の古紙」の回収量に増加する効果があるだけでなく、集団回収量全体の増加にもつながっています。

○団体アンケートについて

回収量が増加したと答えた団体のうち、「回収体験袋は役に立った」との回答が95%と高い結果となっています。回収袋の配布以外に「回覧板での回覧」や「自治会の会議や会合での呼びかけ」などを合わせて実施しており、団体での取組方法等も回収量に影響することが予想されます。

回収体験袋は、その他の古紙リサイクル推進に効果的との回答が80%となっており、回収袋の使用により紙類のリサイクル意識向上に貢献していると考えられます。

自由記述では、「新聞を取らなくなって、紙類を生活ごみに出していた世帯が集団回収に出すようになった」「回収体験袋はとても役に立ったと思います。古紙に関してほとんど生ごみに出していた家庭が大半だったと思います」といった好意的な意見も複数あり、「今後も継続した活用を促し回収増を期待したい」と今後の継続の意思を示した団体もありました。

取組方法や構成団体数等は団体毎に差があり、回収量が増加した団体がすべて回収体験袋の効果とは言えませんが、「回収体験袋」の使用により、回収量増加に一定の効果があると考えています。

今後、回収体験袋の更なる活用を検討・実施しますが、回収体験袋を配布する形にとらわれず、団体の運営状況や構成世帯に見合った、より団体が実施しやすい手法を検討し、紙類のリサイクル促進に取り組んでいくことが求められます。